

高時川中流および杉野川漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

1. 目的

県内河川漁場では、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユ等が漁業権魚種に設定されている。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、高時川漁協の漁場について、夏期の水温モニタリングを実施した。

2. 方法

令和6年6月6日に、高時川漁協の漁場内の杉野川で2地点、高時川で1地点にデータロガー(ONSET社製HOBO Pendant Data Logger UA-002-64)を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流が一ノ瀬橋(木之本町川合)、中流が関電排水口上(木之本町川合)、下流が古橋堰堤(木之本町古橋)とした(図1)。ロガーは、令和6年7月29日、8月23日、11月1日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した(図2、図3、図4)。

3. 結果

調査期間を通じての最高水温は、一ノ瀬橋(27.4℃)、関電排水口上(27.1℃)、古橋堰堤(29.3℃)であった。漁場中流の関電排水口上が、漁場上流の一ノ瀬橋よりも水温が低い状況にあった。一ノ瀬橋から関電排水口までの区間は、河畔林が多く水温の上昇を抑えている可能性が高い。

また、各地点とも25℃を超える日が数日確認されており、アユの漁場として有効であると考えられた。



図1 データロガー設置場所



図2 一ノ瀬橋の日間最高水温推移



図3 排水口上の日間最高水温推移



図4 古橋堰堤の日間最高水温推移